

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 令和元年 6月 8日
(79号)

中之島こゝろ

[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 學塾・中之島事務局

人間学講座
第83講

「武士道とは 愛すること見つけたり」 石川真理子先生



■ 武士道の本質は慈悲

令和という元号は武士道の原点です。日本の精神である武士道の原点とはいったいどこにあるのか。

武士道の三要素について、

新渡戸稲造は「神道」「儒教」「仏教」が渾然一体となったものである、と説きました。私は仏教が武士道にもたらした影響は大きいと思います。仏教の本質とは「慈悲」です。悲しむ者と共に悲しみ、弱きを慮って慈しむ心、それがお釈迦様の御心です。仏教の本質であるこの「慈悲」は武士道の本質でもあるわけです。

イギリスの騎士道とわが国の騎士道はよく並び称されるのですが、イギリスと、日本という特殊な歴史、なりたちを持つ国から生まれた武士道との違いは、まさにこの「慈悲」ではないかと思えます。騎士道はキリスト教の中で生まれてきたものであり、「汝を愛するが如く敵を愛せよ」という教えがあります。しかしなかなかこれは難しいことで、世界の戦史を見ればわかりますが、文明国が途上国を植民地としたときには、原住民は抑圧され、その民族性は失われてしまうことになる。しかし、日本はそのようなことはなかった。日本も近隣諸国に進出したときには、先ずその国のインフラを整備し、学校を作り教育を施した。そして現地の人々が教養と知識を持ち、生きる知恵を身につけ人生を営んでいけるように日本人はしてきたのです。これはやはり仏教の慈悲、お釈迦様の教えがあるからではないかと思うのです。

■ 十七条憲法にみる武士道の源泉

五五二年に仏教が日本に伝わり、深く学ばれたのが聖徳太子です。聖徳太子の著された『法華義疏』には、この教えは日本の仏教であることが明記されています。仏教の受け入れは天皇の勅詔で行なわれており、それは神道を排除して行なわれたものではないということ。わが国では、神道も尊重し、仏教とも融合していくかたちが生まれていったのです。この精神に基づきできたものが十七条憲法です。実はこの憲法の中に武士道の原点があります。武士道は究極の平和主義和を重んじられたのがこの憲法です。

第1条 和を以て貴しとなし（太子の宣言）和を重んじ争わぬようにしなさい。上の者は和やかで、下の者は素直であれば、対立することがあれど道理に適い、協和する。そんな世の中になれば何事も成就する。

第2条 篤く三宝を敬え（天を恐れよ）天の思召しを忘れると人は傲慢になってしまふ。

第3条 謹まざるは自ら敗れん（秩序を保て）

分を弁えてそれぞれが協力し合いなさい。

第4条 礼がすべての基本（思いやりを忘れるな）

第5条 訴訟は厳正に審査せよ（私欲を捨てよ）

公平にあれ。

第6条 悪を懲し善を勧めよ（徳がなければ国が乱れる）

良い行いは公にして、

悪事は必ず正さねば

ならない。

第7条 任務は真面目に遂行し、顕現を

乱用するな（適任者

を選べ）公明正大で

あれ。

第8条 立場ある者



は多く働け（民の手本となれ）勤勉誠実であれ。
第9条 ともに信頼し合え（真心は人の道の基本）
第10条 違いをあげつらつて争うな（怒りは敵と思え）違いを見出すのではなく、共通していることを見ること。争いは良い結果をもたらさない。本当の勇氣ある人は泰然自若とし滅多と怒らない。

第17条 重大な事柄は皆で議論したうえで判断せよ（独断・独裁はならぬ）

武士道の原点、そして日本人の徳はこの十七条憲法に由来しているのではないのでしょうか。

■ 御成敗式目に見る武士道

鎌倉時代になると、北条泰時により聖徳太子の教えに影響を受けた御成敗式目が制定されます。それに見る「道理」とは、武士の実践道徳ともいえます。御成敗式目五十一カ条には、神社仏閣を修理し、人々が敬うべきものにするようつとめること、僧侶としてつとめに励むことのほか、守護の仕事についても定められてあり、庶民に対する行き過ぎた行いを禁じました。またそのほか「悪口は罪となる」「他人に暴力をふるうことは重罪である」「偽造文書や嘘・虚言は罪とする」「いつわりの訴えをしてはならない」等、その内容は庶民を慮って（撫民）作られたものでした。また五十一カ条中女性を守る法律が十二あります。このように庶民、女性等弱い立場を慈しむあり方も、武士はそもそも人格的に優れておらねばならなかったからなのです。平安初期荘園村落の領主領民は優れた武士のもとにいれば安全で財産も守れたのですが、武士に求められたことは、単に武士として強いということではない。民に対し優しさと理解をもっていればこそ領民も武士のもとに集い、よく働くことができた。つまりは下の者から慕われる人格が求められたのです。御成敗式目を見ると、武士というものが愛と慈しみをいかに大切にしていたかが解つていただけることでしょう。

（抄録 中川千都子）

《グループ討議》

□ 講師 石川真理子先生

「武士道とは愛することと見つけたら」

【Aグループ】

- ① 武士道とは弱者を慈しむ愛である。
- ② 武士は日本人の原点である。
- ③ 北条重時の武家訓は、現在にも通じる。

【Bグループ】

- ① 仏教の本質は「慈悲」
- ② 十七条憲法 第十条 忿（こころのいかり）を絶ち（怒りを抑え、表に出してはならない。）
- ③ 家訓・祈念の力を侮らない。

【Cグループ】

- ① 祈念の力を重視。
- ② 慈悲の心。武士道には仏教の教えが入っている。
- ③ 怒りは敵と思え ↓ 本当の勇気が必要。

【Dグループ】

- ① 武士の情けはお釈迦様の「慈悲」。
- ② 十七条憲法は現在にも通じる根本を押さえている。
- ③ 武士は本当に民のことを考えていた。

【Eグループ】

- ① 武士道には、仏教の慈悲の心と愛がある。
- ② 女性を大切にという家訓があることに驚いた。
- ③ 奈良、鎌倉時代のもだが現代にも通じるものだと考えた。



《読書会》Aグループ

- ・指導 宮武清寛代表
- ・テキスト 『仮名論語』 学而第一輪読
- ・進行 北嶋紀子塾生

◆ 子曰わく、学びて時に之を習う、喜ばしからずや。友達方より来る有り、亦樂しからずや。人知らずして愠みず、亦君子ならずや。

◆ 子曰わく、巧言令色鮮なし仁。
僧子曰わく、吾日に吾が身を三省す。

◆ 子曰わく、父在せば其の志を親父没すれば其の行いを親る。三年父の道を改むる無くんば孝と謂う可し。

◆ 有子曰く、和を知りて和すれども禮を以てこれを節せざれば、また行うべからざるなり。



《読書会》（Bグループ）

- ・指導 近藤宏枝世話人
- ・テキスト 森 信三先生『一語一会』五月
- ・進行 大西由香塾生

五月二日
五分の時間を生かせぬ程度の人間に、大したことはできぬと考えてよい。

五月十日

次に大切なことは、一度着手した仕事は一気呵成にやつのけるということです。と同時にいい意味での拙速主義と言つてよく、仕上げはまず八十点級というつもりで、とにかく一気に仕上げるのが大切です。

五月十一日

しつけというものは、お説教ではできないというのが根本原則です。しつけの根本責任者たる母親自身の実行以外には無いわけです。毎朝母親が、家中の者に向かつてハッキリした朝のあいさつをすることが第一であります。

五月二十五日

人間は、進歩か退歩かの何れかであつて、その中間はない。現状維持と思うのは、じつは退歩している証拠である。



《大悟徹底》

寺田一清先生寄稿録



「鎮国の山」

霊峰富士の頂上に、中林悟竹の書による雄渾な碑が建立されています。明治三十一年（一八九八）戊戌の年、肥前の国中林悟竹が始めて富士山に登頂せられたときのもので、七十二歳の書毫と刻まれています。となればはや二〇〇年の風雪に耐えて、山頂に鎮座ましまして、日本の国の安泰を祈念しつづけておられるともいえましょう。

森信三先生から『悟竹書話』についてお聴きしたことがあり、かつて悟竹書展に同行させていただいたことがあります。もとより、私などには、書のよさなど解するものでなく、何か変わった書体であるなど感じたぐらいのことでした。ただ書聖「中林悟竹」の名前は心に刻まれていたようです。

ところで去る八月十七日、道友塚本恵昭様の同行を得て、三回目の富士登拜を果たすことができました。そして塚本様のカメラによりしかと撮影いただき、その碑の前で二人並んで記念の写真を撮っていただきました。

おそらくこれが山頂における最後の映像となるであろうと思われるかもしれません。というのも、前回・前々回に比べて大変な困難を痛感しましたからです。

まずは浅間神社の奥の宮に参拝し、無事登拜のおん礼を言上いたしましたあと、七十歳以上の方による記名簿に、住所・氏名・生年月日を記帳いたしました。そのあと、記名簿をめくって八十歳以上の方を探しましたが、ほんのわずかでした。

ところで塚本様の携帯を活用させていただき、まずは自宅の家族あて、無事登拜できましたことを報告し、安心していただきました。そして夜の宿泊所の9合目まで下ってきたのですが、その途中足を滑らせて瓦礫の角で左脛をすりむくということもありました。

いよいよ天のおさしずを感じざるを得ませんでした。

機関紙『若竹』平成22年9月より

《卒塾文集寄稿案内》

第七期も最終段階に差し迫り、卒塾を目前に控える第七期に足跡を残して戴き為に、卒塾文集『やまなみ』を例年通り発刊いたします。

つきましては、本日配布の卒塾文集寄稿案内を熟読の上、締切日を厳守、提出お願い致します。

◆ 原稿締切日 七月十日

※ 詳細は卒塾文集寄稿案内を確認ください。

森 信三先生 言葉

(一) 即今着手 とにかくスグ手をつける、これが何よりも秘訣。

(二) 一気呵成 仕事の二等分線をこえるまで、一点集中で。

(三) 拙速主義 スピード感を持って、仕上げは80点級で絶対に期日厳守。

《先哲に学ぶ生き方》

森信三先生

「わが道を拓く」

古来偉人は、すべて自分の置かれた境遇に於いて立派に生きている。

世間的な地位は天命ゆえ、それぞれの地位に安住して悠々とわが道を拓かねばならない。

森信三

「運命を創る一〇〇の金言」より

《羽田街道おもてなし清掃》

池永辰朗塾生

中川副代表、小南さんと共に、第39回「羽田街道おもてなし清掃」に参加しました。

朝8時15分、環七大井ふ頭ガード下に集合。我々のグループは、人間学塾・中之島塾生の大塚さんがリーダーで野鳥公園を担当、雑草を抜き、周辺を整備、気持ちのよい汗をかきました。

東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて始まった羽田街道おもてなし清掃は、三年をすぎました。開始された時は、7名で想像を絶する不法投棄と格闘。回を重ねる毎に人数も増えてきて、「かなり整備されてきた」と。実際、きれいになっていると実感しました。しかしながら、オリンピック競技会場周辺が、まだ汚ない状態で、まだまだやるべき事が山積です。機会があれば、また参加したいと思っています。

「羽田街道おもてなし清掃」は、第1週の日曜日です。ありがとうございます。



Before



After

《人間学塾・中之島》

■ 7月カリキュラム

＊日時 令和元年7月13日(第二土曜日)

＊場所 大阪大学中之島センター 10F

大阪市北区中之島四三二五三

＊講師 山川 晋先生

「熱く生きる」

1962年滋賀県生まれ。税理士法人中央総研代表社員。会計人の使命とは何か、との問いに明快な答えを与えてくれた師匠の越智直正に人間学を学ぶ。中小企業の社長が元氣になれば日本が良くなると、ボランティアで毎月一回、京都・名古屋・金沢・彦根など8カ所を「人間学」を開催。「現代の論語と算盤」を追求している。

《お薦め書籍》

対談『風の彼方へ禅と武士道の生き方』

執行草舟・横田南嶺 著



出版社 PHP 研究所
頒価 二一六〇円(税込)
ISBN 4-569-64369

日本人のDNAともいえる二つの生き方に共通点はあるのか？白熱の対談を忠実に再現。第一部は、禅の真髓を語り合った。第二部は、般若心経の「空」に迫った。第三部は、武士道の生き方「やせ我慢の思想」を論じた。第四部は、禅と武士道の極みである「絶点」に達した。現代人は、長生きほどうい、健康なほどうい、おいしいものを食べるほどうい、お金持ちほどうい、立身出世するほどうい、それが幸せな人生だと勘違いしている。二人は指摘する。それこそ仏教という「餓鬼道」であり、哀れな「我利我利亡者」なのだ。「何も無い豊かさを知れ」…求道者のみが語り得る極限の対談集。

《芳信抄》

山下武彦様(埼玉県児玉郡)

松岡浩先生のご講演の下に五つのグループに分かれて討議され、参加者が自らを高め、生かされる期会とされたことがよく分かり、価値ある研修会であったと知りました。このユースが四頁と道友のひろば二頁の形が定まりつつあるように思われます。編集発行に充たられる方々の意気込みを感じます。すばらしいです。

柴田久美子様(岡山市北区津山)

「時を守り・場を清め・礼を正す」言葉は事務所に掲げながら、松岡先生の文章に社員の幸せを通じて社会に貢献できるように尽くします。

桂 誠司様(愛媛県四国中央市)

毎月これだけのボリュームのものを作成するのは大変なことですね。松岡様には、以前ずつと社内誌を送って頂いておりました。長年に渉る実践は、凄いです。白いタオルが汚れないトイレは素晴らしいです。

坂部智一様(愛知県豊田市)

松岡浩先生の「改善提案」は、本で拝読しておりまして。今号で拝読した会社だけでなく、各種の集会にも応用できるかもと実践の着手点を教えて頂きました。提案をする人は、人間成長につながり、さらに笑顔にまでつながるの教えます。提案数は提案される側の人格に比例するとなると、提案も喜びになります。時々提案を嫌がる人もいます。「掃除に広さと人物の広さは比例する」出逢えてよかったお言葉です。

加藤秀夫様(宮城県名取市)

松岡様の実践は、森信三先生の「再建の三原則」を忠実に実践されている見本ともいえるものですね。

大出雅一様(埼玉県川越市)

松岡浩先生のお話は、心に真直にストンと落ちました。「時を守る」は「信用」に繋がる。単に時間に遅れることではない。他者中心の人間には、早目に出向いて時間を無駄にせず。鍵山秀三郎先生のように、近くの公園のゴミ拾いをされる。「時を守る」の奥深さを改めて教えられた思いです。「日本の復活は、一人ひとりの年長者が、時を守り・場を清め・礼を正すことを心がけることで可能です」の言葉に、自分の役割の一つを自覚させられました。

寺田一清先生の「大悟徹底」の「安逸 強欲 増上慢」を自分の戒めとして精進してまいります。

山田 司様(大阪府堺市)



広島に、病弱で「ウスノロ」と呼ばれた少年がいた。学校は休んでばかり。勉強は大嫌い。それでも地元の高校を何とか卒業。しかし、就職口はなく、父親のあとを継いで農業をやるしかなかった。その日暮らした、貧乏を絵に描いたような生活が続く。運よく結婚して、人の子どもに恵まれるが、妻が若くしてガンにかかり死別。自身も栄養失調で失明の危機に。そんなどん底の人生のなかで、唯一、続けていたのがハガキを書くことだった。森信三、徳永康起という人の聖人教師から、ハガキを書くことを教わったからである。

坂田道信著『ハガキ道』より